



アルカイド 第四十一号 目次

〔小説〕

桜吹雪

風の足跡

あきちゃんどゲン

ほおずき朱く

青鷺

柔らかな髪

秘密

花吹雪の下で

高畠 寛	4
木村 誠子	27
二上 法幸	37
佐伯 晋	52
多紀 祥子	64
細見 牧代	70
山田 泰成	89
亀谷 美子	101





妻子なし

池 誠

118

トウカエデ

奥畑 信子

131

芽加葉とモトオットーの日々(1)

「毒の棘」

軽尾たか子

142

〔旅行記〕

おかん、中国へ行く

高原ちよみ

167

アルカイド三十九号、四十号の反響 他

編集後記

同人名簿

182 183 184



『アルカイド三十九号・四十号の反響 他』

■樹林二〇一〇年冬号

(小説同人誌評・佐々木国広)

☆村井理恵子「しゅろの木の下で犬と寝た」(『あるかいど』第39号)

夫は心筋梗塞で倒れて鬱病に罹り、入院を繰り返している内に離婚を口にして暴言を吐くようになった。「わたし」はアルコールに頼る他なく、或る時酔って路上にへたりこんでいた処、男に拾われ気が移って夫と別れた。男は失職したとか「わたし」の家へ犬シーズーと共にころがりこんできては本性むきだしに暴力をふるった。「わたし」はたちまちアルコールに溺れ、その度にシーズーに救われた。無性にアルコールと男が欲しくなり、取引先の男性やマスターと共に寝た。取られても男から離れられなくなった。やがて男は性犯罪で捕まり前科があることも判った。「わたし」は自殺を図ろうとしたけれども犬にしきりに吠えられて……。

男の暴力とアルコール依存の生地獄から脱し、犬に縋って立ち直ろうとする女

の物語。一種の饒舌体ながら短文に切迫感と勢いがあって読ませる。それが苦衷に喘ぐ女の息遣いと合致しているからだ。

■神戸新聞(2010.4.24.朝刊)

(同人誌評・竹内和夫)

☆鵜瀬順一「螺旋」(あるかいど40号)

巻頭の鵜瀬順一(西宮市在住)「螺旋」は、50歳を目前にした「僕」が、10歳の息子一樹に自分の投影を見て、同じ年ごろに長崎・五島列島で育った自身の記憶を重ねる。

祖母と別れて母の家族に引き取られた「僕」は、漁師の義父の分厚い愛情を受けて日々を過ごす、自分を慕っていた幼い義弟が海に落ちておぼれ死んだ出来事思い返す。

海の記憶に誘われるように、夏休みに妻子を連れて山陰の竹野へ旅し、泳げない一樹を浮輪にのせて浜遊びをし、多くの巻き貝を採集する。巻き貝は《生きた記憶が円錐型に巻いた螺旋》の象徴であり、螺旋の頂きは、先細る将来への不安感であろうか。

■第三回『神戸エルマール文学賞』の最終候補作に、鵜瀬順一さんの「草決闘」(あるかいど38号)が選ばれました。

エルマール3号(2009.10.12発行)

☆主人公は夜学の文芸サークルで小説を書いている二十歳の青年。初めて参加した合評会で逢った五歳上の既婚の女性にいきなり心を奪われる。女性は体を許しながらも心のすべてを与えることなく、夫の子を懐妊したことを告げて家庭のなかへ去る。曲折のある純情物語であり悲恋小説でもある。主人公の心が締め付けられるような吐露が多く、相手との会話やかなりきわどい描写が話を深くしている。(大塚滋評)

☆文学仲間たちの混迷する生活の中でも切磋琢磨、謎めいた年上の人妻に対する純粹な愛を描いて迫力があつた。草決闘の猥雑にして真剣な児童もつややかな彩を加えている。(竹内和夫評)

☆柔らかな素直な心をそのまま写し取つたような青春記が書ける作者に、今後の期待をしている。創作の海は深く、底が知れないけれど。(三田地智評)

編集後記

○今二股ならぬ三股の生活に明け暮れている。文校に十年、陶芸教室に四年、書道教室に二年である。○文校に通いながら、高畠チューターの『アルカイド』同人にもなり、それも早九年になった。その間、会計を仰せつかり、自慢と言えば健全財政ぐらいか。○今年『アルカイド』に四名の加入があり、二十六名の大所帯となった。今年の同人には四十年の刑事生活をしてきた人もおられるようで、色んな職種を経験してきた人たちの書き手が増え、『アルカイド』編集委員として、嬉しい悲鳴をあげている。○同人が増え、掲載作品の増加が予測されるので、『アルカイド』の発行を、四十一号から年三回に変更した。あつという間に、五十号、六十号を迎えるだろう。○

同人の木村さんが『ガンガールの風』の単行本を出された。あとがきに、先に逝かれた夫への手みやげとあるが、『ガンガールの風』だけで満足しないで、もつともつと書いて、単行本を増やしていつてほしい。○先日亡父の三十三回忌と、亡母の五十回忌を家で済ませたが、その時にふとこの世に『遺言』を残しておきたいと思いついた。床に間に、小生の掛け軸をかけておきたいのだ。後に残った息子らが、これが親父の書き残した掛け軸だよと、言われたいために、今日も悪筆と苦闘している。床の間に掛けてくれるかどうかは分からないが、掛け軸そのものは残るだろうと思っているのだが。(泰)

○最近の政治状況を見ていてつくづく思うことがある。マスコミ報道に踊らされて、次々と政権が変わる。度々電話による、平均一五〇〇人ぐ

らしいの世論調査があり、NHKと右から左までの新聞の同じような質問、支持率。最高時七〇%、最悪時一七%。○最初の四ヶ月はまだ良かったのだが、後の四ヶ月は支持率が急落して、鳩山内閣はとうとうつぶれてしまった。一年交替の首相がこれで四人目である。しかも今回は鳴りもの入りで選ばれた民主党政権の首相である。戦後六十五年、今までほとんどの人が知らなかった、普天間の名前は、今では小学生でも知っている。あとどれだけの報道が続くかである。ニュースは消耗品なのだ。○自分の頭でしっかり考え、自分独自の意見を持たない日本人は、大勢順応だ。ニュース解説者や、いわゆる識者の意見にうなずき、あたかもその意見が自分の意見のように錯覚して、マスコミに振り回される。こんな短期間で国論がころころ変わる国も世界では珍しいだろう。(寛)